

木木是好日

きぎ・これ・こうじつ

都市部から地方へ移り住み、地域課題の解決やさらなる活性化のために活動する「地域おこし協力隊」。日頃の取り組みの様子やその思いを、皆さんにお伝えします。

Vol. 5 「モノづくりの^{たの}愉しさを実感」

地域おこし協力隊5カ月目。まだ三寒四温という感じですが、この厳しかった冬もようやくひと段落して、作業もやりやすくなってきました。

雨の日には・・・

雨が降ると作業を手伝いに来てくれる方々がいます。普段はそれぞれ忙しく動き回っているのですが、雨の日は自分の作業ができないからと、製材を手伝ってくれるのです。丸太の移動、おが粉や端板の片付けと、本当にありがたいです。お礼の代わりにちょっとした材料を作ったり、木工の手伝いをしています。最近では、そんな雨の日に一気に製材を進めています。

木工旋盤、稼働開始

木工旋盤も台を作り、テストを始めました。これは、いわゆる「ろくろ」で、「材料を回転させてこけしや木の器を作る道具」といえばイメージしやすいかと思いますが、この木工旋盤の良いところは、ちょっととした端材

でも小皿や置物などに加工できるところです。材料を無駄なく使えるので、これから活用していきたいと考えています。ただ、ヒノキはまだいいのですが、スギのような柔らかい木は、この加工に向いていません。そこで今は、あちこちにお願いで、コツコツと広葉樹を集めています。木を伐採して、処分困るものがありましたら、ぜひ連絡いただければうれしいです。

「適材適所」

いろいろな木を加工していると、それぞれの樹種で香りや色や堅さなどの違いを感じる事ができ、楽しいです。ヒノキの香りはもう慣れてしまっただけかもしれませんが、たまにサクラやクスノキなどを削ったりすると、その香りが作業場に広がります。それぞれの木に特徴があって、魅力があります。プラスチックやアルミなどの素材に代わる前は、当たり前のようにその木の特徴を活かして、まさ

に「適材適所」でさまざまな木が使われていました。今も貯木場に来る方々からは「鍬(くわ)の柄にするためのカシの木」とか「このホウの木をまな板にしよう」とか「モミでハチの巣箱を作る」とか、よくそんな話を聞きます。桑野山貯木場で開催されているエコティかわねの「竹の籠」作りの講座も毎回盛況で、遠方からも参加者が訪れます。今は、便利で安価な道具や材料が、簡単に手に入ります。でも、ちょっとした普段使いの道具を、地元の木で自分の使いやすい形に作れば、きつと愛着も湧くはず。それだけでなく、その道具を使うこと自体が愉しみになれば、少し豊かな気分になれるのでは。

● 鈴木 健二 すずき・けんじ

神奈川県逗子市出身。東京、静岡の石油販売会社に勤務したのち、個人で間伐と木工の仕事を開始。協力隊として、桑野山貯木場で製材・木工機械の管理と、地域の木材の利活用促進に向けた「木」や「森林」に携わる活動に取り組む。最近の関心は、古民家や農業のほか、少し昔の時代のくらしや道具など。前居住地は静岡市清水区。

